

# 事務事業評価シート

(平成 23 年度実施事業)

事務事業名	塵芥処理事業			事業コード	0290
所属コード	059000	課等名	収集センター	係名	
課長名	藤川伸也	担当者名	浅沼裕子	内線番号	5213
評価分類	<input checked="" type="checkbox"/> 一般 <input type="checkbox"/> 公の施設 <input type="checkbox"/> 大規模公共事業 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理				

## 1 事務事業の基本情報

### (1) 概要

総合計画 体系	施策の柱	環境との共生	コード	6
	施策	生活環境の保全	コード	1
	基本事業	環境衛生の確保	コード	1
予算費目名	一般会計 4 款 2 項 2 目 塵芥処理事業 (001-01)			
特記事項				
事業期間	<input checked="" type="checkbox"/> 単年度 <input type="checkbox"/> 単年度繰越 <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度	開始年度	年度	
根拠法令等	盛岡市廃棄物の減量及び適正処理等に関する条例等			

### (2) 事務事業の概要

家庭系一般廃棄物の収集運搬

### (3) この事務事業を開始したきっかけ (いつ頃どんな経緯で開始されたのか)

明治 3 9 年都市化に伴う廃棄物の増加により事業開始

### (4) 事務事業を取り巻く現在の状況はどうか。(3)からどう変化したか。

市民からの問い合わせは日々絶えることはない。議会でも各会期、必ずと言ってよいほど廃棄物・ごみ行政に関する質問が出される。市民生活に直結する課題のため、意見要望は多岐にわたる。また、ごみ集積所の設置等に関する意見要望も多くなってきている。

産業廃棄物とも関連するが、人間活動の質・量の増大に伴い廃棄物が出され、今日の地球環境にとって重要課題となってきている。また、廃棄するだけでなくリサイクルを徹底することが重要となる。

## 2 事務事業の実施状況 (Do)

### (1) 対象 (誰が、何が対象か)

旧盛岡市域 (担当区域分) の家庭系一般廃棄物の排出者。

(2) 対象指標（対象の大きさを示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 見込み
A 一般家庭	人	108,800	99,800	86,000	86,923	60,850
B						
C						

(3) 23年度に実施した主な活動・手順

塵芥収集車を使用し一般家庭から排出される一般廃棄物の収集を行う。

(4) 活動指標（事務事業の活動量を示す指標）

指標項目	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A 収集量	t	21,736	18,765	17,200	16,705	11,700
B						
C						

(5) 意図（対象をどのように変えるのか）

市民生活を快適でうるおいのあるものにするため、一般家庭の日常生活に伴って排出される家庭系一般廃棄物を迅速かつ安全に収集する。

(6) 成果指標（意図の達成度を示す指標）

指標項目	性格	単位	21年度 実績	22年度 実績	23年度 計画	23年度 実績	26年度 目標値
A 苦情・要望件数の減少	<input checked="" type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持	件	4	3	4	2	2
B	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						
C	<input type="checkbox"/> 上げる <input type="checkbox"/> 下げる <input type="checkbox"/> 維持						

(7) 事業費

項目	財源内訳	単位	21年度実績	22年度実績	23年度計画	23年度実績
事業費	① 国	千円	0	0	0	0
	② 県	千円	0	0	330	330
	③ 地方債	千円	0	0	0	0
	④ 一般財源	千円	54,489	48,674	52,386	45,232
	⑤ その他( )	千円	142	84	84	125
	A 小計 ①～⑤	千円	54,631	48,758	52,800	45,687
人件費	⑥ 延べ業務時間数	時間	117,873	102,594	81,396	90,132
	B 職員人件費 ⑥×4,000円	千円	471,492	410,328	325,584	360,528
計	トータルコスト A+B	千円	526,123	459,086	378,384	406,215
備考						

3 事務事業の評価 (See) . . . . .

(1) 必要性評価 (評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要)

① 施策体系との整合性

見直す余地がある

廃棄物の迅速な処理は、快適で潤いのある生活環境の保全へと結びつく

② 市の関与の妥当性

妥当である

法定事務である

③ 対象の妥当性

現状で妥当である

法定事務である

④ 廃止・休止の影響

影響がある

家庭系一般廃棄物の収集が滞ると、市民からの苦情・非難を浴びる。また、収集が滞ることにより衛生上も悪影響となる。

(2) 有効性評価 (成果の向上余地)

向上余地がある

ごみ集積所の整備等により、効果的な収集が出来る

(3) 公平性評価（評価区分が「内部管理」の事務事業は記入不要）

適正化余地がある

粗大ごみを有料化としたが、可燃ごみ等についても有料化について調査検討を進めていく必要がある

(4) 効率性評価

削減余地がある

委託の推進

**4 事務事業の改革案 (Plan) . . . . .**

(1) 改革改善の方向性

収集の民間委託は更に進めるべきであり、その中で市民サービスの更なる向上についても検討すべきである。なお、三ッ割・門両センターの統合については、23年度から門収集センターを使用し収集センターとして組織の一元化が行われる。

(2) 改革改善に向けて想定される問題点及びその克服方法

収集の民間委託は更に進めるべきであり、その中で市民サービスの更なる向上についても検討すべきである。なお、三ッ割・門両センターの統合については、23年度から門収集センターを利用し収集センターとして組織の一元化が行われる。

**5 課長意見 . . . . .**

(1) 今後の方向性

- 現状維持（従来どおりで特に改革改善をしない）
- 改革改善を行う（事業の統廃合・連携を含む）
- 終了・廃止・休止

(2) 全体総括・今後の改革改善の内容

平成14年度から可燃廃棄物について、委託を実施しており委託化推進により車両及び人員が減少してきている。

委託を開始し11年目となり、地域の廃棄物に対する要望も多様化してきているが、一方で市民の適正に排出する責務についても問題が生じている。

24年度から門収集センターを利用し収集センターとして組織の一元化が行われるが、直営業務の効果的・効率的な体制について検討する必要がある。また、施設整備の外、焼却施設解体、土地利用等の課題がある。